



みんな楽しく みんなでもチャレンジ みんなまる笑顔の

みんなまの子

南有馬小学校だより No.17

令和8年9月1日(火)
南島原市立南有馬小学校
校長 大草 修三

実りのとき 第2学期スタート!!

長い夏休みが終わり、子どもたちが学校に戻ってきました。夏休みの宿題や作品を手に、元気いっぱいに登校してきました。子どもたちの声が響き渡る学校は、いいものです。保護者の皆様、地域の皆様、2学期もよろしくお願いいたします。

2学期の始まりに当たり、始業式で子どもたちに次のような話をしました。

始業式の言葉 ～大体こんなことを話しました～

(前略) 校長先生は、2学期に全校のみなさんで大切にしたいめあてを一つ決めました。それは、「言葉を大切にしよう」ということです。言葉は、目には見えません。でも、言葉には大きな力があります。その言葉の力を、南有馬小学校の目指す児童像「やさしく」「あかるく」「たくましく」に合わせて3つの場面でお話します。

まず「やさしく」です。休み時間に友達と遊んでいて、自分の思ったとおりにならなかったとします。そんなとき、「もういい」とか「やーめた」などと言ってしまうと、言われた人はどう思うでしょう。遊ぶのが楽しくなくなってしまうかもしれません。そんなときは、「次はこうしてみよう」「もう一回やろう」と言うみてください。同じ出来事でも、言葉が変わると、みんながまた楽しく遊べるようになります。

次に「あかるく」です。朝、教室で友達に会ったとき、「おはよう」と明るい声でさわやかに挨拶をされたら、どんな気持ちになるでしょう。「今日もがんばろう」と、元気が出るかもしれませんし、気持ちよく教室に入ることができるかもしれません。反対に、何も言わずに通り過ぎられたり、いやな言葉を言われたりしたら、心がしょんぼりしてしまうかもしれません。

次に「たくましく」です。自分自身への言葉を考えてみましょう。勉強で難しい問題に出会ったとき、「どうせできない」と決めつけていませんか。そんなときは、「やってみよう」「少しずつできるようになろう」と、自分に言ってあげてください。また、友達や先生に「教えて」と伝えてみてください。体育の鉄棒で逆上がりができないときには「いやだな。したくないな。」ではなく「よし、がんばるぞ。」と自分を励ましてください。言葉は、友達の心だけでなく、自分の心も元気にします。

また、「ありがとう」ときちんと言え、こと、「ごめんなさい」と素直に言うこと、「手伝おうか」と声をかけること、「大丈夫?」と心を配ること、「いっしょにやろう」と仲間になること、友達や先生の話を最後までしっかり聞くこと。これらも、すべて言葉を大切にすることです。

2学期の終業式の日に、「やさしい言葉が増えたな」「友達と明るい気持ちで過ごせたな」「自分に負けないでがんばったな」と、みんなで思える南有馬小学校にしたいと思います。

「ありがとう」「ごめんなさい」「手伝おうか」「大丈夫?」「いっしょにやろう」こんな言葉が、学校に、町じゅうに広がっていくことを願っています。(後略)

楽しかったよ！ 書道教室



8月21日（金）の登校日に、飛龍会の植松桂春先生はじめ約20名の方のご協力を得て、書道教室を開催しました。

子どもたちは、大きな筆で、縦横70cmの大きな書道用紙に、自分で決めた一文字を書きました。初めての体験に、最初は戸惑っていた子もいたのですが、書道の先生方の丁寧なアドバイスのもと、次第に緊張も解けて楽しんで字を書いていた。どの子も、書き上げた作品を見ながら、まんざらでもない笑顔を見せていたのがとても印象的でした。

子どもたちの作品は、写真を撮った後、持ち帰らせますので、ご家庭でも見ていただき、感想を話していただければと思います。



最初に、書道の先生がお手本を見せてくださいました。

自分の名前を一文字書きました。上手に書けました。



最後に、書道の先生に名前の一文字の印を押しもらいました。

ほっとタイム

今回は、どうでもいい、私の夏休みの出来事を書きます。お時間のある方で興味のある場合はお読みください。

実は、今年の夏休み、ドイツとイタリアに行ってきました。息子夫婦が住んでいるので、せっかくだから行ってみようということで、妻と行ってきました。

羽田から飛行機で12時間余り。ドイツのミュンヘン空港に到着。保安検査を通過しようとしたら「ビー」と鳴ってしまいました。羽田では鳴らなかったのに…と思っていたら、巨体の上にこわもての検査官に手で「こっち来い」と指示されました。検査官は、上着、ズボンとチェックし、なんといきなり私のズボンのベルトに手をかけ、素早い動きでバックルを外すと、あっという間もなく、ズボンからベルトを抜き取ったのです。その間、約2秒。そして、危険物の有無を確かめるためだとは思いますが、断りもなく私のズボンに手を突っ込み、腰回りを前後左右余すところなく触りまくったのです。「あっ、そ、そこは…」と日本語で言っても通じるわけなく、されるがままでした。そして、何もなかったことを確認すると、「もう一回通れ」と言わんばかりに検査機の方を指さしました。私は、ズボンが下がった情けない姿で再度検査機を通りました。今度は「ビー」と鳴りませんでした。巨体の検査官は、意外とかわいくニコッと笑い「OK!」と言いました。私もほっとして「サンキュー、ベリーマッチ!」と言いました。

日本はもう少し丁寧なのになぁと思いながら、異国に来たことを身をもって実感したのでした。

※今後、紙面にゆとりがあるときに体験談を紹介します。